

天心の芸術 うっとり

妙高 オペラ「白狐」上演



感情豊かに岡倉天心の世界観を歌い上げたオペラ「白狐」のハイライト上演＝30日、妙高市文化ホール

日本近代美術の父、岡倉天心原作のオペラ「白狐」が30日、妙高市文化ホールで上演された。アリアや合唱など21曲が奏でられ、約300人の聴衆が天心の芸術に浸った。

「白狐」は昨年、同ホー

ルが開館30周年記念事業の目玉として主催し、全幕を日本語で初演した。聴衆から再演を望む声寄せられ、今回、ハイライト部分による演奏が実現した。

白狐は、男に助けられたキツネが男と恋に落ち、子

を持ったが、正体が知られる前に別れるという物語。人形浄瑠璃「信太妻」を基に、天心が妙高で亡くなる直前に英語で台本を執筆した。

昨年指揮を執った平井秀明さんをはじめ、プロのソリストや市民合唱団が出演。愛の喜びや復讐心、大切な人との別れなどを情感たっぷりに歌い上げた。約2時間のステージが終了すると、聴衆から大きな拍手が鳴りやまなかった。

上越市の無職竹内隆一さん(67)は「歌もよかったし、地域の人が多く参加していたのも魅力的。継続的にやってほしい」と感激していた。

指揮者の平井さんは「何度も上演することで内容が濃くなる。今後も思いを歌に乗せて発信してほしい」と期待した。